

令和5年度 学力向上プラン

- 日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法
- 学習指導要領 ○埼玉県指導の重点・努力点
- 新座市指導の重点・努力点 等

確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。
- 自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する力を育む

校内研究の推進・充実

研究主題

確かな学力を育てる

～自ら学びに向かう児童の育成～

研究の仮説

総合的な学習の時間・生活科を中心に、児童のやる気を引き出す授業を計画し、追究する学習を展開することで、自ら学びに向かう児童を育成することができるのではないか。

目指す児童像

- ◎主体的に問題に取り組める子
- ◎課題を追究できる子
- ◎対話的に問題を解決し、深い学びを実感できる子

具体的な児童のすがた

「授業がたのしい」「(チャイムが鳴って)もう終わりなの?」
「家でもやりたい」「もっと続けたい」
「もっと調べたい」「生活に活かしたい」
「できた」「わかった」「話したい」「伝えたい」「自信がついた」

学校教育目標

確かな学力を育て、豊かな人間性を培う

目指す児童像

自分が好き、友だちが好き、栄が好き

～自己肯定感・自己有用感を高め、学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力を育てることで児童・保護者・地域に信頼される学校づくりの推進～

本校の課題

- 学力が二極化しており、中・低位の児童の学力が伸び悩んでいる。
- 受け身が当たり前になっている児童が多い。
- いわれたことは一生懸命取り組める。しかし、決められたこと以上はしてはいけないと思い込んでいる児童が多い。

Plan

【視点1】自ら学びに向かう児童の育成

総合的な学習の時間・生活科

- 児童の主体性を伸ばす授業、児童が追究し、考える力をはぐくむ授業の実践。
- ・児童も教師も「たのしい」と感じる授業計画の立案。
 - ・1時間の中で、達成感や充実感を感じさせる授業を展開する。
 - ・児童が追究したくなる仕掛けと、追究の奨励。
 - ・集団で学び合う中で個性を磨き、思考を深め、学習方略・技能を習得させる。

【視点2】基礎・基本の学力の定着

(1) 国語

【いつ】ベーシックタイム・授業内・家庭学習
【どのように】Qubena「小学文章の読み取り」、当該学年をすべてAになるまで演習させる。

(2) 算数

【いつ】ベーシックタイム・授業内・家庭学習
【どのように】Qubena「計算練習問題」、当該学年をすべてAになるまで演習させる。

(3) 読書活動

- ・木曜朝(15分) & ベーシックタイム(10分)での読書
- ・読書100冊・1万ページ達成者を表彰

新座市立栄小学校



児童の実態 保護者の願い 教師の願い

令和5年度埼玉県学力学習状況調査より

令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果

	国語正答率	算数正答率
	県平均との差	県平均との差
4年	65.3%	64.6%
	+1.7	+0.7
5年	69.2%	65.5%
	+6.5	+2.5
6年	65.0%	58.3%
	+4.2	+1.8

分析から見える課題

- ①どの学年でも県平均を上回っている。しかし、学力の二極化が起きている。
 - ②「わからないところがあったら勉強のやり方をいろいろ変えてみる」「勉強していてわからないところがあったら先生にきく」等の自己調整力が高い。
 - ③「新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する」は低く、学習方略を認識している児童が多いとは言えない。
 - ④上位層の児童は伸びているが、中位・下位層の児童は伸び悩んでいる。
- 国語
・文の構成を理解する、文の内容を読み取る、文章中の指す言葉がどれか答えられる児童が少ない。
- 算数
・無回答の児童がいる。

児童一人一人が輝く授業により
「自分が好き、友だちが好き、栄が好き」
集団で学び合うことで、自己有用感を養い、ともに
によりよく生きようとする児童を育成する

社会と関わり、自己の生き方を考える SDGs 教育の推進

Action

検証結果による改善

- ・研究計画の見直し
- ・年間指導計画の見直し

計画に基づく実践

・日々の教育実践、授業 ・研究授業、授業公開

Check

実践の検証・評価

・各種学力調査 ・調査アンケート ・研究協議会 ・学校評価